

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101568		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム泉ヶ丘		
所在地	熊本市東区南町16-8		
自己評価作成日	平成29年3月15日	評価結果市町村受理日	平成29年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して丸2年、理念で①「私たちは、安心・安全をテーマに、ほっとできる心地よい空間づくりを目指します。」②「人生の大先輩である年長者を敬い、お一人お一人の尊厳を大切にします。」③「自由で自分らしくいられる、否定しない介護を目指します。」を継続して掲げ、開所以来の思いである、「日々穏やかで、笑顔の絶えない楽しいホーム作り」を継続実施しております。又、地域との交流では、熊本地震の際、避難所として開放した経緯もありより信頼関係が構築出来たのではないかと考えております。今後は、4月にオープン予定している、認知症カフェ開催にて地域との交流を深めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来からの地域に根づくべく努力や運営推進会議が功を奏し、自治会長の進言により子ども神輿のルートとなったり、自治会の誕生会に呼ばれる等一層の深まりを見せている。ユニット名を開設者の誕生石として高齢者への思いを引き継ぎ、明るく広々としたハード面で充実したなかで、心一つにソフト面での強化に努め、管理者を中心として意思疎通の良い関係はアイデアも豊富である。例として読書を趣味とした入居者対応に“泉ヶ丘文庫”を設置されている。また、開設して2年ではあるが、主治医や管理者等24時間体制のもと入居者の最終章に寄り添い家族へのケアにまで取り組まれたことや、理念の掲示方法やホーム便りの創刊等外部評価結果に対する真摯な取り組みに敬意を表したい。熊本地震では避難所として開放したことで地域との関係が深まり、今年4月より認知症カフェも開催される予定であり、この地に開設された意義が発信できるものと大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>朝礼後の、理念唱和を継続して行っており職員全員で理念に沿った統一した介護を目指している。又、掲げる場所を増やし、意識づけをしている。</p>	<p>法人の理念をホームでも継続し、朝礼後理念を唱和している。昨年の評価を受け理念の掲示箇所を増やすことで意識付けや来訪者への周知としている。また、本年度は、サブテーマとして「利用者ファースト」を掲げる予定である。「優しく、穏やかに、ゆっくりと」のサブ理念も職員のケア規範と、日々のケアの中で理念を実践しているか振り返っている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会・民生員の方々の出入りや地域のお客様の訪問も増え、利用者様が地域の方と接する機会が増えた。町内の神輿もホームまで来て頂いたり地域の方々に支えられている。</p>	<p>開設時より自治会に加入し、入居者と一緒に回覧版を持ち届けながら顔見知りの関係を築いている。地域交流室は地域包括支援センター、自治会の会議や折り紙教室として開放しており、入居者の楽しみ事(折り紙)として生かされている。また、地域の防災訓練参加や、自治会の誕生会の中で講演したり、自治会長の配慮により子供神輿のルートとなり玄関先で披露される等地域の中の一員として受け入れられている。「こどもひなんの家」の受託や4月から認知症カフェの開催も決定している。開設時より地域に根付くための取組みにより一層の深まりを見せている。</p>	<p>ホームから地域へ多くの情報を発信したいという意向であり、ホーム前は道路に面しており、「泉ヶ丘通信」、「認知症カフェの開催」等の情報を発信する掲示板を検討いただきたい。管理者は幼稚園の評議員として繋がりが出来ており、更に入居者の活性化につながるものと大いに期待したい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方々及びささえりあ様と半年間計画を立ててきた、認知症カフェの開催が4月からと決まり、少しでも地域への支援・貢献が出来ればと考えております。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月/回(今年度は熊本地震の為5回)の定期開催をしている。メンバーも協力調剤薬局の方が1名増え評価等も幅広く出来るようになってきた。又、事故報告等も会議で公表しており、引き続き開かれた施設づくりを目指します。	地域の代表、地域包括支援センター、主治医、家族等のほか、新たに協力調剤薬局等充実したメンバーにより定期的に開催している。幼稚園長も参加されたことで、園児と地域高齢者との交流の場とすることも決定する等この会議がホームのみならず地域一帯を考える会議として活用されている。また、ホームの現状報告や事故報告、看取り等も報告し、活発な質疑応答、意見交換とともに、透明性のあるホームであることが議事録に表出している。	家族の参加が少ないことが課題であると認識されており、今後も参加を促して頂き、ホームの現状を発信いただきたい。「泉ヶ丘通信」を活用し、運営推進会議での話し合いの結果等を開示することで、参加意欲を引き出されることも一案と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告必要事故等が起きた場合、電話報告だけではなく、市役所本庁へ出向き担当者へ報告しアドバイスを受け今後の介護に生かしている。	地域包括支援センターとは地震の時の対応や入居相談が入居に繋がる等相互の情報交換を行っている。また、地域包括支援センターの会議に地域交流室を提供し、認知症カフェの開催に向け協力・連携している。市担当部署に事故報告に出かけ、アドバイスを得たり、介護相談専門員制度を活用し、ケアサービス反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の際ご家族に拘束をしない方向性の趣旨を必ず伝えるようにしている。又、職員の勉強会を開催し、毎朝朝礼で、身体拘束排除宣言を唱和している。	玄関に「身体拘束廃止宣言」を掲示し、毎朝礼時に、理念とともに唱和することで意識強化を図っている。研修により拘束の弊害を全員が正しく認識し、新聞報道により知り得た拘束や虐待について、理念に沿ったケアを行うよう指導し、職員の言葉使いについても、常に注意喚起している。入居者個々の帰宅願望や外出傾向を把握し、玄関で止めないこととしている。	近隣住民からの見守り支援等地域との関係性が構築したホームであり事故にはつながってはいないが、今後も入居者の所在確認を徹底されることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学ぶ事と同時に、職員のストレス状況の把握にも努めている。又、施設2ヶ所に「高齢者虐待ゼロ宣言」を掲示し啓発している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この件に関しての、勉強会等進んでおらず、知識・理解不足と思われます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書は双方納得の上で契約出来ていると思います。又、契約の前に、管理者・ケアマネ・看護師で面談を行い説明不足を無くし理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、2年間1枚も入っていた事が無い為、面会時に管理者・職員が極力ご家族と話す機会を持つように心掛けている。又、熊本市の相談専門委員派遣の方からの意見を聞いている。	意見箱の他、家族の来訪も多く話をする機会も増え、信頼関係を築く中で意見や要望等を聞いている。家族会が発足し、大掃除の協力の提案も挙がっている。入居者からは普段の関わりの中で聞き取りし、介護相談専門員の情報をケアサービスに反映させている。	家族の中には一緒に食事をされる等ホームへの関りも多く、更に意見や提案を聞く機会として家族会を有効に活用されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の代表者への意見や要望を書いた手紙を出す事を継続して実施している。又、年2回管理者と職員の面談を実施している。全体会議では、全員が話せる雰囲気作りを心掛けている。	管理者は、日々ケアに入りながら職員の意見、提案等を収集し、全体会議では運営面もオープンにし、全職員に意見を求めている。また、管理者は個人面談を行い、意見や提案等は全体に投げかけ良い方向へと繋ぐことが務めであるとし全員で検討している。一方で、法人代表者に各職員が手紙で意見、提案等を出すことを継続されている。職員向けのマッサージや休憩時間の取得、残業ゼロを目指している。職員同士が話し合える環境がストレスケアに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業ゼロを目標に推進はしているものの、実際には、実現にほど遠いのが現状である。現在は、4月よりスタートのキャリアパス制度導入に動いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、積極的に外部研修等参加し易いように、費用負担を一部行っている。現在、自社教育体制の計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のブロック協議会や、ささえりあ江津湖管内の会合等に月1回以上のペースで参加し、意見交換や勉強会をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前より当施設を見学して頂く事により、と入所直後の、安心安定と信頼関係が取れやすい様心掛けている。又事前に、協力医のアドバイスを受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より、ご家族に何度も当施設を訪問して頂き意見交換する事で信頼関係を構築するようにしている。特に出来ない事は、はっきりと伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報収集する事で、初期段階での不安解消に努めている。その結果、入所当初からGHでは異例であるが、デイサービスに行っている方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長という思いを、職員間の共通認識とし、誕生日には、職員と外食や温泉に行っている。又、食事作りや洗濯物たたみ等、出来る事は協力して実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、近況報告等し情報共有する事で、共に支えあう協力体制を取っている。又、ご本人とご家族のよき理解者である様心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム周辺の入居者様も多く、地域住民の方がいつでも気兼ねなく来られる雰囲気作り心掛け、又地域交流室を地域の方その他に開放している。	毎月のお寺参りや、入居後も引き続きデイサービスに通う入居者、週1回の美容室、提携している美容バスを利用される等(いつまでもきれいにしたいとの家族の思い)馴染みの関係が途切れないよう家族の協力により支援している。また、かかりつけ医や晩酌等継続して支援している。家族も食事介助等頻回に訪問されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態や相性等考慮し食事席の配慮をしたりユニット間の交流も取り入れている。集団に入れない場合は、職員が関与している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度、看取りにて2名の方の退所があったが、49日の法要に参加させて頂いたり、電話連絡時には、ホームへ遊びに来られ思いで話をする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望や意向は、ある程度把握できているものの、外出等ご本人の希望に添えない点が多々あるが、本人本位に検討する姿勢ではいる。	一日の生活に日課表を作らず、入居者ファーストとしてケアを行っている。職員は、入居者のそばに寄り添い、表情、言動、しぐさ等で推察している。 入居者は“〇〇して欲しい”との訴えがあり、どこかに出かけたい等にはかなりの努力が必要であるとし、暖かい日にはテラスでの食事により思いを実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より、ご本人・ご家族と会う機会を増やし、なるべく多く情報収集できる事を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化するご利用者様の状態変化をタイムリーに感じ把握し、職員間での水平展開を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに基づき、定期的にご家族を交え担当者会議を実施している。最近では、担当医師も参加されることもあり、意見やアイデアに幅が広がった。	ヒヤリハット事例によるカンファレンスや2ヶ月毎のカンファレンス、3ヵ月毎のモニタリング、半年毎には現在の状態と家族の要望の他、主治医等入居者に関わる各関係者によりサービスについて担当者会議を開催している。自分のことは自分でとの思いを実現するためのプランや終末期にはプランを新たに作り直す等、現状に即した個別的、且つ詳細なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、事実を正確に記入し誰にでもわかる内容での記入を心掛けている。事実を把握する事で、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	HP受診や美容室同行保険申請等サービスという概念に捉われず、ご利用者様・ご家族様の生活の一部として捉えていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域子供会の行事や、施設内交流室で月2回開催される折り紙教室に加え紙芝居等に参加する事により、外部との隔たりが無いように心がけている。又、4月より地域の方々の協力を得、認知症カフェを開催する事にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(内科医)が2件あり少しでもご本人及びご家族の選択肢が広がる様支援している。又それに関わらず、主治医は自由としている。又、ご家族が主治医と気軽に話せる場の提供も行っている。	協力医のアドバイスにより協力医療機関を2ヶ所とし、馴染みのある主治医の往診とする入居者や、家族での対応による専門医(皮膚科や眼科等)への受診としているが、家族の諸事情によりホームで対応したり、車椅子利用者には送迎を行っている。訪問看護や訪問歯科等も利用し、日々のバイタルチェックにより健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職の関係は良好で、介護職の気づきや疑問を看護職が判りやすく丁寧に伝えている。又、適宜朝礼にてご利用者様の状態報告をしており、それが水平展開できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、主治医と相談し紹介状等で入院先を決定している。(家族希望も聞く)入院後も各HPの相談員さんと情報交換もされており、退院時の情報交換も適切に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、入所時終末期の話を行い、医療連携同意書の承諾書を頂いている。又職員向けの勉強会開催やDrを交え適宜家族への説明を行っている。Drが看取り期と判断された時点で看取り同意書の作成を実施している。	入居に当たり医療連携体制指針をもとに説明し緊急時や延命等の思いを聞き取りし同意書を交わしている。看取り期にあたり、主治医の判断によりあらためて同意を得るとして家族と話し合いを行っている。管理者と主治医、看護職員との24時間連携のもと看取りケアを実践している。看取り期のプランのもと、救急体制を敷き、人の死という局面に家族へのケア、その後のケア等全員で共有している。協力医による研修も行っており、看取り支援が職員のケア向上として生かされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十分とは言えないが、AED勉強会等で訓練や認識を高めるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち合いの訓練や、消防署主催の講習会に参加している。自治会と協力して地域の防災訓練に参加している。	年2回の総合訓練(消防署立ち合い)や、地域の防災訓練に参加し地震体験や煙の中での視野体験、心肺蘇生の処置方法を学んでいる。自然災害時には、今回の地震の経験で部屋に居ることを申し合わせ、備蓄の再準備、食糧配達方法等を見直し、災害用電話を設置するとしている。火災発生防止として火元確認の徹底とともに、ホーム周辺にも気を配っている。	今回の熊本地震では近隣住民を受け入れ、地域への炊き出しも行われている。今後も自然災害についての机上訓練や、地域との協力体制について運営推進会議の中で繰り返し検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくりと 穏やかに 優しくを基本に声掛けは実践している。時折感情にて接する職員がいるのも事実であり、お互いが注意し合える職場にしていきたい。	理念の中で入居者を人生の大先輩として謳い、ホームを最終章として穏やかに生活できる場として捉え、ゆっくり 穏やかに 優しくを基本にして支援に努めている。呼称はさん付けを基本としているが、夫婦の場合は下の名で呼び、入浴を誘うときには使いわける等本人の反応を見ながら対応している。マイナンバー制度となり個人情報漏えいには特に注意し、写真の掲示・使用は家族に了解を得ている。また、職員の守秘義務については入職時に説明し同意を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間、起床就寝時間はある程度の目安はあるものの、基本ご利用者様の時間帯に合わせ支援行っている。ご利用者様の意思を大切に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の1日の日課表は作成しておらず、お一人お一人日々違う行動に対応できる様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容を基本に、時には化粧を楽しんだり、外出時には家族差入れの洋服を着られたり支援している。イベント時には、女性職員と化粧している姿も見られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	まず、その方に合った食事場所の提供をしている。野菜の皮むき等出来る所は、一緒にしているが、職員によりバラツキがあるのが現状である。	家庭的な料理をホーム中央キッチンで作り、入居者も茶わんやお盆拭き等に取組まれている。また、家族の介助や入居者の状況に合わせた座席として、各ユニット1名が見守りや介助に当たり、他の職員は休憩を取ることでメリハリのあるケアとしている。料理を得意とする入居者と家族とで夕食作りを取組まれた事例もあり、入居者が出来る事(野菜の皮むきや茶わん拭き等)に関わることは、自信回復として生かされており、今後も継続した取り組みに期待したい。	キッチンの後片付け等は食事終了後に集中して行うことで、よりゆっくりした食事となる事と思われ、一度検討いただきたい。また、エプロンの使用方法も再度検討されることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最近、カロリー計算された献立ではなく、家庭的料理の提供が比重を占めてきている。水分量には気を付け定期的に促し、好きな飲み物の把握にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底出来ている。出来ない方は支援させて頂いている。又、希望により医師の定期的訪問治療・指導を受けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本一般下着の着用を心掛けている。やむを得ない場合は紙パンツの使用もあるが、トイレにての排泄は、絶対条件となっている。又、排泄チェック表にて管理も実施している。	排泄をチェックすることにより個々のパターンを把握し、尿意訴えの有無によりケア方法を検討し、尿意の無い方には時間的な誘導を行っている。下着を中心に、昼・夜の排せつ用品を使いわけ、気持ち良い排泄を支援している。入居者の中には排便コントロールの一環として、排泄状況をカレンダーに記録し続ける等自立された方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	Dr指示のもと定期薬を使用されている方や、習慣の飲み物等で工夫している。又排便チェック表にて管理し傾向の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特例が無い限り、午後からと業務都合で決めている。入浴を楽しまれる方と苦痛に感じられておられる方がおり、今後工夫が必要である。	午後からの入浴を、1日置きに支援しているが冬場は減ることもある。毎日入浴を声掛けしても入居拒否が強く、清拭もままならない状況にドライシャンプーでの洗髪による清潔保持や、2名での入浴介助を家族に相談して支援するケースもある。湯船に浸かる事で温まってもらいたいと温泉の素を利用したり、入居者の誘いにより二人で入浴されることもある。	昔ながらの髭剃り等の工夫により、入居者が入りたくなるような入浴を実践したいとしており、入浴の声かけやタイミングを検討いただき、入浴が楽しいと思えるような支援に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や気分を考慮し状況に応じ対応している。又眠れないご利用者様には、添い寝する事もある。日中レク等を取り入れ体を動かす事を促し夜間安眠に繋がる工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になったりした時点で、看護師より変更内容や副作用の説明がある。又調剤薬局の薬剤師さんより定期的な説明、ご本人 ご家族 職員になされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状個別の生活歴等考慮した支援は出来ておらず、全体レクレーションでフォローしているのが現状である。今後、工夫し個別対応の必要性を検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力のお蔭で希望に応じた外出や外泊が出来ている。又職員との外食等ごく一部しか出来て無い為、今後地域の方とも協力頂き実践して行きたい。	家族の協力により自宅への外出や外泊、外食・買い物等に出かけられているが、ホーム全体での外出や、車いす利用の場合には外に出ることが難しいとのことである。職員との個別買物や、季節の良い時期の健軍神社や江津湖への外出、食事レクとして外食等を支援している。	動植物園での桜見学が計画されている。暖かい時期にはホーム周辺への散歩や、桜の開花を心待ちにされていることが食事中に聞こえてきたことを踏まえ、外気浴の一環として中庭の活用を検討いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のご利用者様は、ご家族承諾のもと自己管理されておられるが、それを使う機会を提供できてないのが現実である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持込みもOKしており、自由に家族と会話されている。希望があれば、電話の支援をしている。(家族から、かかって来る方が多い)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調関係は、床暖房等を取り入れ快適に過ごせる様工夫している。季節の植物等飾ってはいるものの、量的にも少なく配慮が必要と思われる。	入居者の心身の状況によってレイアウトされたパブリックスペースはゆっくりとした寛ぎの場となり、長い廊下は歩行訓練の場として生かされている。地域住民から提供された雛飾りや、職員の持ち寄った草花が季節感を醸し出しているとともに、桜のほころびを心待ちにされる姿等庭先の景観も居心地に繋げている。床暖房が施され快適な環境と、住宅街の静かな環境の中でユニット同士垣根を超えた交流が行われている。今年度は新聞を購読される入居者もおられることから、“泉ヶ丘文庫”として本を用意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル3セット ソファ1セットの他小さなテーブルを使用しご利用者様の状況に合わせた居場所の提供を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のご利用には、制限はしておらず、ご利用者様・ご家族が自由にできそれを職員がサポート出来る体制を取っている。馴染みの物は、持参して頂くように伝えている。	居室の持ち込みは最低限必要なリストをもとに説明すると共に、居室の入口の掲示ボードも本人が自分の部屋であることが分かるよう馴染みのものでのレイアウト等自由に使ってほしいと説明している。家族写真や仏壇、位牌やテレビの他、キーボード等を持ち込み自宅での沿線上を思わせる居室等、居心地よく過ごす環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安全確保に注意し、自由に生活できるようにしている。		